

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-14

<p>部門名：カリキュラム・マネジメント実践部門</p>	<p>エントリー名：愛媛県西条市立西条南中学校・佐伯 美佳 平成30年度第4回中堅教員研修</p>
<p>活動名：縁を築く心の育成 ～ 南中人権啓発劇の成功を目指して ～</p>	
<p>解決すべき課題 「人間としての在り方・生き方に関する教育」が重要視されている中、「特別の教科 道徳」がスタートし、「考え、議論する道徳」が求められている。しかし、考え、議論するためのベースとなる自己肯定感や自己有用感の低い生徒が多い。更に若手教員が多い中、深く心の育成を目指した実践に至っていないのが現実である。</p>	
<p>目標・方針 本校の教育目標の具現化を図るべく、まずは、弱みとされる「自信をもつ生徒」の育成に重点をおきたいと考えた。そのために、「思いを語る生徒」の育成、思いを語れる「心の育成」を図ることをテーマとして、人権・同和教育を軸とした実践を行うことで、道徳の授業が活性化され、ひいては人間としての在り方・生き方を深く考えることにつながっていくと考えた。 また、実践するに当たり、本校の所属する西条市では、人権・同和教育を大変熱心に取り組んでいる。学校においても、毎年地域課題を共通教材として選定し、人権・同和教育の授業に取り組むこととなっている。そこで、人権・同和教育の年間計画を見直し、教職員間で見通し（ゴール）を共有することから始めた。その主な活動として、総合的な学習の時間や生徒会活動、人権委員会の活動等、さまざまな角度からのアプローチにより、人権課題の解決に取り組み、学んだ知識や思いを発信する場を設けることで、自己肯定感や自己有用感を高めることを目標とした。さらに、若手教員の研修や校内研修の充実を図りながら、「思いを語れる教師」の育成にも励むことで、生徒たちとともに「人間としての在り方・生き方」を深く学べると考え、実践した。</p>	
<p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人権・同和教育の年間指導計画の見直しと今年度の見直し →生徒の実態把握と地域課題の理解と分析も目的として 2 人権・同和教育を軸とした思いを語る場の設定→自分の思いをもつことを目的として (→活動の中で対等な関係で教師とともに考える) ・総合的な学習 人権委員会 生徒会 自主活動 3 教職員研修の充実→思いを語れる教師の育成を目指して 4 学びを広げる活動の設定→思いを語れる生徒の育成を目指して 	
<p>活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員研修の充実を図ることにより、教職員自身が思いを語る機会が増え、職員室内での会話もより積極的になった。そのことにより、生徒の前でも一人の人間として自分の思いを語るできるようになった。 ○ 学びを広げる活動（プレゼンテーション）をあらゆる対象、形態で行うことにより、より多くの生徒が、自分の思いをまとめ、それを語る事ができた。また、その会場の設営や運営を生徒と教師が協力し合いながら行うことで、生徒の自信へとつながったように思う。 ○ ゴールである人権啓発劇は、3年生や人権委員が中心であるが、1・2年生の感想にも内容に関する自分自身の思いを書く生徒が増え、先輩の姿を見て、自分たちの出番に向けて意欲をより高めることができた。 ○ 自主活動への参加を希望する生徒が増加し、積極的に行動できる生徒が増えた。 	
<p>アピールポイント（アイデアや工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間の活用方法（これまでの取組の内容をアレンジすることで負担を増大させることなく活動している。） ○ 学びを広げる場の設定を多く取り入れることで、自分の思いを自分の言葉で語る経験をさせている。 ○ さまざまな集団の形態からのアプローチにより、より多くの考えを共有し合える。 	

